発信

進路にかかわって学校・教師に望むこと

―保護者の立場から

大阪府立柴島高等学校 保護者　坂 山 裕 子

健常児と共に地域の高校へ行きたい。そんな思いで柴島高校を受験して、はや三年生になりました。高校卒業後の進路は漠然としていて、具体的には決めていませんでした。入学当初から、ずっと学校の先生方と話をしているうちに、真剣に考えなくてはいけない（全く考えていなかったわけではないが）時期が来たのかと思いました。

私の娘は重度の知的障害児です。進路の問題も大切な事ですが、その前に娘に社会性や協調性を身につけて欲しいと思いました。今日までどれだけ成長したのかわかりませんが、高校卒業後も、様々な人に会い、いろいろな場所に行き、いろいろな困難に出会うことでしょう。そのたびに、一人では無理でも、周りの人たちに助けてもらいながら乗り越えていって欲しいと思ったからです。

個人の障害の程度や家庭環境、居住地のことなど、障害のある子を持つ親には、本当にいろいろな事で思い悩む日があります。

もちろん健常児（者）の保護者の方々も様々な思い、悩みなどあるでしょうが、障害児（者）を持つ保護者の思いや悩みは、何倍もあると思います。そんな親の思いを聞いて下さったり、意見やアドバイスなどを言って下さる先生方が増えますようにと期待しています。

在学中の今、学校の先生方にお願いしたいことがあります。娘と他の生徒たちは今後別々の進路を歩むことになります。しかしこの先も、柴島高校で過ごした楽しかった３年間の高校生活の中での友達関係を大切にして、「卒業したら終わり、さようなら」ということ無く、何らかの形でずっと関わっていけるように、サポートして頂けたらと思います。

柴島高校卒業後、娘は地域の授産施設に通所することになると思います。施設に早く慣れるよう、通所されているメンバーさんたちとも仲良くなれるよう、人間関係もスムーズにいきますよう、もちろん作業等もうまく出来ますように願っています。これからも学校の先生方には、指導員の方々とも連携をとっていただくなど、御指導、御協力をお願いしたいと思います。そして、施設にも顔を見せに来ていただいたり、声をかけて下さったら嬉しいです。

障害児の高校卒業後の進路は道が少なく、親だけではとうてい、かなえてあげられるものではありません。学校の先生方、地域の方々の御指導、御協力なしでは出来ないのです。

柴島高校の先生方だけではなく、他の地域の学校の先生方、他の地域の方々にお願いします。障害児の思い、親の思いに、今まで以上にもっと耳を傾けて下さい。声を聞いて下さい。もっともっとたくさん、障害のある子どもたちが選択できる道が増えますように。